道徳だより 2

1 / 25 (水)

「十六番目の代表選手」の授業から

「間接的・精神的な協力によって支えられ、物事を成し遂げられるよさに心を動かす。」というねらいで授業を行いました。

怪我で北京オリンピックに出場することができなくなった内藤選手の気持ちやグラウンドでプレーする仲間達の思いについて考えました。

終末では、「チーム」とは、一緒に試合に出られなくても、お互いの心が通じ合い、一つになることである気付き、「チームのために自分にできることをする大切さ」や「チームで喜びを分かち合える素晴らしさ」に心を動かしていました。

1/25(水) 第25回 十六番目の代表選手

「チーム」とは？

- ・協力して活動力。
- ・仲間
- ・友達
- ・いじめをしない。
- ・支え合う。
- ・力を合わせる。

内藤選手

- ・くやしい。
- ・出たかた。
- ↓
- ・みんなの笑顔が見たい！
- ・みんなのために応えたい！
- ・応えんかできないから、せいっぱい。

仲間達

- ・出れないのために勝ちたい。
- ・一緒に出たかた。
- ・金メダルを見せたい。
- ・一生けん命戦おう。

ほかがなみだでめれていた時

- ・おめでとう。
- ・勝つてよかった。
- ・金メダルをありがとう。
- ・一生けん命応えんしてよかった。
- ・出れなかつたけど、チーム。
- ・自分のために→うれしい。

よこびを分かち合える

自分もみんなも支え合う

児童の振り返りより...

協力や心を一つにすることでチームと言えることが分かった。よこびを分かち合えれば、いいチームになる。自分もみんなも協力すれば、楽しいチームにもなれる。

チームは心が通じ合っているということが分かった。これからは仲間を思い通りにしたい。

みんなのことを分かちあえるチームがよいチーム。出れなくてもチームだからよこびを分かちあえる。

改めてチームの良さを知った。その場にならなくても、同じようによこびを分かち合えればチームの一員だということも分かった。

協力しあって木目手のコも自分のことと思えば、みんなできあがるチームにしていきたい。